

総合学科における教育課程の構成と展開

益 田 亮 英

1 はじめに

全国で総合学科を設置する高校は平成6年度に7校がスタートして、年毎に設置数は増え続け平成19年度はその数325校（定時制を含む）となっている¹。熊本県においては県立校1校、私立校1校と設置数では全国で最も少ない。平成8年度に県下初の総合学科高校として誕生した熊本県立翔陽高校は、工業3系列、農業2系列、家庭・商業・普通各1系列を持ち、広範囲の学習領域を擁した全国的にもスケールの大きな総合学科高校として特色のある教育を展開している。平成19年度翔陽高等学校教育懇話会資料及びデュアルシステム運営委員会資料を中心に、総合学科の教育課程の特徴と教育課程の展開における留意点や問題点、課題を探りたい。

2 総合学科設立の趣旨

文部時報（No.1422 平成7年6月）の「総合学科について」の中で、初等中等教育局職業教育課によって、総合学科設立の趣旨について以下のように述べられている。

『高等学校の学科としては普通教育を主とする普通科と専門教育を主とする専門学科があり、昭和23年の新制高等学校発足以来、この二学科制で行われてきた。しかし、これまでの二学科制では、現在の高校生の能力・適性、興味・関心、進路等の多様化に対応することが困難であり、また、普通科は進学、専門学科のうち殆どを占める職業学科は就職という固定的な考え方が、学校間の序列化、偏差値偏重の進路指導などの問題を生じさせるなど一定の限界があった。

中央教育審議会答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」（平成3年4月19日）において、「現在の普通科と職業学科に大別されている学科区分を見直し、普通科と職業学科とを総合するような新たな学科」である総合的な新学科の設置について提言された。それを受けて設置された「高等学校教育の改革の推進に関する会議」において総合的な新学科についての制度的な検討がなされ、平成5年2月12日に普通科及び専門学科と並ぶ総合学科の設置に関する第4次報告が公表された。その主な内容は、将来の職業選択への自覚を深めさせる学習及び主体的な学習を通して学ぶ楽しさを体験させる学習の重視、制度の弾力的運用、多様な教科・科目の開設等である。』

このように総合学科は、高学歴志向による上級学校への進学率の上昇、偏差値等に過度に依存した中学校の進路指導等によって生じた高等学校への不本意入学による怠学や中途退学など高校教育に発生したさまざまな問題の解決のため、高校改革の切り札として期待を担って出発した。

その趣旨の主たるところは、個人の進路や興味・関心に応じた学習の場を提供し、学習に対す

るモチベーションや学校生活への満足感を高め、進路希望の実現を図ることによって、社会における学歴偏重の考え方を是正し、学歴のみを重視するのではなく、どのような知識、技術や資格を身に付け、どのようにして豊かな人間性を養ってきたかなどの学習歴が正しく評価されるような学習歴社会を創り出すことにある。

総合学科は、選択制と単位制を中心に据え、多様な学習分野の教科科目を揃えるとともに、学校間連携や技能審査の結果の単位認定など、教育課程の弾力的な運営を特徴として展開されている。このようにして総合学科は平成6年度から総合学科が普通科、専門学科に続く第3の学科として誕生することになった²。

3 総合学科の教育課程

現行の学習指導要領では、総則第1章第3款の3で以下のように示している。『総合学科においては、学年による教育課程の区分を設けない課程（以下「単位制による課程」という。）とすることを原則とするとともに、「産業社会と人間」及び専門教育に関する各教科・科目を合わせて25単位以上設け、生徒が普通教育及び専門教育に関する多様な各教科・科目から主体的に選択履修できるようにすること。その際、生徒が選択履修するに当たっての指針となるよう、体系性や専門性等において相互に関連する各教科・科目によって構成される科目群を複数設けるとともに、必要に応じ、それら以外の各教科・科目を設け、生徒が自由に選択履修できるようにすること。』総合学科では関連する各教科・科目によって構成される科目群を系列と呼んでいる。系列は生徒の科目選択の指針となるもので、それによって生徒を拘束するものではない。専門高校における学科やコースとは異なる。

翔陽高校の平成19年度入学生の教育課程は資料 i、ii のとおりである。教育課程上の設置科目数は114科目あり、普通教科から農業、工業、商業、家庭と学習の領域が広く科目数が多い。普通科目だけを数えても47科目ある。1年次は理科と芸術からそれぞれ1科目、総合選択科目として6科目から1科目の選択がある。2年次は体育、保健、グリーンデザインの必修科目以外は24単位が自由選択となっている。3年次になると体育以外26単位が自由選択となる。卒業条件を満たすための必修科目や選択条件による制限があるもののほぼ個人の自由意志によって選択が可能になっている。

K高校の普通科の教育課程（資料 iii）と比較してみる。設置科目数は47科目、1年生で芸術が選択、2年生になると文か理のコースを選択するその上で地歴と理科を選択する。更に3年生になると理科のコースがⅠとⅡに更に選択されそれぞれのコースで理科や芸術、数学や国語などの選択が設けられているが、個々の生徒から見ると選択の幅はごく限られたものになっている。

総合学科の設置科目数は普通教科だけでも普通高校の設置科目とほぼ同じとなっている。ちなみにY工業高校の教育課程（資料 iv）で見ると普通教科の設置科目数は22科目となっている。総合学科における設置科目の多さが際立つ。以下総合学科の教育課程における具体的な特徴を挙げる。

資料 i 教育課程表(1)

学科	総合学科		
入学年度	平成18年度入学		
単位数	1年次	2年次	3年次
1		②体 育	②体 育
2	④国語総合	①保 健	(選択科目から26単位選択)
3			
4		②グリーンデザイン	
5			
6	②現代社会	(選択科目から24単位選択)	
7			
8	④数 学 I		
9			
10			
11	②理科総合A、Bから1科目		
12			
13			
14	③体 育		
15			
16	①保 健		
17	②音、美、書Iから1科目		
18			
19	②情 報 A		
20			
21			
22	④英 語 I		
23			
24			
25	②家庭基礎		
26			
27	②産業社会と人間		
28			
29	②総合選択科目		②総合的な学習の時間
30		②総合的な学習の時間	
31	①LHR		①LHR
32		①LHR	
留意事項	総合選択科目は次の中から選ぶ ・数 学 A ・オーラルコミュニケーションI ・農業科学基礎 ・工業技術基礎 ・ワープロライティング ・生活デザイン	・卒業までに日本史AB地理ABから1科目履修すること ・卒業までに理科をもう1科目履修すること ・2年次の「総合的な学習の時間」の単位数は、通年で実施する1単位と、特定の期間(前期)に実施するインターンシップ(1単位分)とを併せて2単位とする	・世界史ABから1科目履修すること

資料 ii 教育課程表(2)

教科	科 目	標準単位	1年次	2年次	3年次	合 計	備 考
国 語	国語表現 I	2			2	0.2	
	国語総合	4	4	2		4.6	
	現代文	4		2	2	0.4	
	古典	4		2	2	0.4	
地 理 歴 史	世界史 A	2			2	0.2	
	世界史 B	4			4	0.4	
	日本史 A	2		2		0.2	
	日本史 B	4		4		0.4	
	地 理 A	2		2		0.2	
	地 理 B	4		4		0.4	
公 民	現代社会	2	2			0.2	
	倫 理	2			2	0.2	
	政治・経済	2			2	0.2	
数 学	数学基礎	2			2	0.2	
	数 学 I	3	4			0.4	
	数 学 II	4		4		0.4.6	
		2		2	2		
		4		2			
	数 学 III	3			4	0.4	
	数 学 A	2	▲ 2		2	0.2	
	数 学 B	2			2	0.2	
数 学 C	2			2	0.2		
理 科	理科総合 A	2	○ 2	2		0.2	
	理科総合 B	2	○ 2	2		0.2	
	物 理 I	3			4	0.4	
	物 理 II	3			4	0.4	
	化 学 I	3			4	0.4	
	化 学 II	3			4	0.4	
	生 物 I	3			4	0.4	
	生 物 II	3			4	0.4	
	地 学 I	3			4	0.4	
	地 学 II	3			4	0.4	
保 健	体 育	7~8	3	2	2	7	
芸 術	保 健	2	1	1		2	
	音 楽 I	2	● 2			0.2	
	音 楽 II	2			2	0.2	
	美 術 I	2	● 2			0.2	
	美 術 II	2			2	0.2	
	書 道 I	2	● 2			0.2	
	書 道 II	2			2	0.2	
外 国 語	オーラルコミュニケーション I	2	▲ 2		2	0.2	
	オーラルコミュニケーション II	4			4	0.4	
	英 語 I	3	4			0.4	
	英 語 II	4		4		0.4	
		2		2			
	リーディング	4			4	0.4	
ライディング	4			4	0.4		
家 庭 情 報	家庭基礎	2	2			2	
	情 報 A	2	2			2	
普通教科計			26~28	3~27	4~28	33~83	
農 業	農業科学基礎	2~6	▲ 2			0.2	
	総合実習	4~12		2	4	0.6	
	農業情報処理	2~6		2		0.2	
	食品製造	2~10		4	2	0.4.6	
	食品化学	2~8		2	4	0.6	
	微生物基礎	2~6		2		0.2	
	食品製造衛生	2			2	0.2	
	食品加工	2		2		0.2	
	動物微生物バイオテクノロジー	2~6			2	0.2	
	食品流通	2~6			2	0.2	
	造園計画	2~10		2	4	0.4.6	
造園技術	2~10		4	4	0.4.8		

教科	科 目	標準単位	1年次	2年次	3年次	合 計	備 考
農 業	測 量	2～8		2		0.2	
	生物活用	2～6		2		0.2	
	グリーンデザイン	2		2		2	学校指定科目
	ガーデニング	2			2	0.2	
	ホースライディング	2		2		0.2	
工 業	工業技術基礎	2～6	▲ 2			0.2	
	機械実習	4～20		4	2	0.4.6	
	電子実習	4～20		4	4	0.4.8	3年次のみは不可
	建築実習	4～20		2	4	0.6	
	機械製図	2～18		2	2	0.2.4	3年次のみは不可
	電子製図	2～18			2	0.2	
	建築製図	2～18		2	2	0.2.4	
	情報技術基礎	2～6		2		0.2	
	生産システム技術	2～8			2	0.2	
	機械工作	2～8			2	0.2	
	機械設計	2～8		2	2	0.2.4	
	原 動 機	2～4			2	0.2	
	電気基礎	2～8		4	2	0.4.6	
	電子技術	2～6			2	0.2	
	電子情報技術	2～4		2		0.2	
	ソフトウェア技術	2～6			2	0.2	
	建築構造	2～5		4		0.4	
	建築施工	2～6			2	0.2	
	建築構造設計	2～8			4	0.4	
	建築計画	2～8		4		0.4	
建築法規	2～4			2	0.2		
建築造形	2			2	0.2		
マルチメディア利用	2			2	0.2		
商 業	ビジネス基礎	2～4		2		0.2	
	総合実践	2～4			4	0.4	
	商業技術	2～4		2		0.2	
	マーケティング	2～4			2	0.2	
	経済活動と法	2～4			2	0.2	
	簿 記	2～5		4		0.4	
	会 計	2～4			4	0.4	
	原価計算	2～4			4	0.4	
	情報処理	2～5		4		0.4	
	ビジネス情報	2～5			4	0.4	
	文書デザイン	2～4			2	0.2	
ワープロライティング	2～4	▲ 2			0.2		
家 庭	発達と保育	2～6		2		0.2	
	児童文化	2～4			2	0.2	
	家庭看護・福祉	2～8		2	4	0.6	
	服飾文化	2～4			2	0.2	
	被服製作	2～16		4	4	0.4.8	3年次のみは不可
	ファッションデザイン	2～14		2		0.2	
	服飾手芸	2～6		2	2	0.2.4	
	フードデザイン	2～10		4	4	0.4.8	3年次のみは不可
	食 文 化	1～2		2		0.2	
	栄 養	2～4			2	0.2	
	生活デザイン	2	▲ 2			0.2	
生活調理	2			2	0.2		
体育	スポーツⅡ	2～18		2		0.2	
外国語	中国語	2		2		0.2	
専 門 教 科 計			2～0	26～2	24～0	52～2	
産業	産業社会と人間	2～4	2			2	原則履修科目
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
	総合的な学習の時間	3～6		2	2	4	
合 計			31	32	31	94	

▲は1年次の選択科目、●は芸術より1科目選択、○は理科総合A Bのいずれか選択

資料Ⅲ K高校 普通科 教育課程表

教科	学 年		I	II		III			計				
	学 科	目		標準単位	1 年次	文	理	文	理 I	理 II	文	理 I	理 II
国 語	国語表現 I		2					2○			0.2		
	国語総合		4	5							5	5	5
	現代文		4		2	2	4	3	3	6	5	5	
	古典		4		3	2	2	2	2	5	4	4	
地 理 歴 史	世界史 A		2		2	2					2	2	2
	世界史 B		4							0.4	0.4	0.4	
	日本史 A		2							0.2	0.2	0.2	
	日本史 B		4		2	2	4			0.4	0.4	0.4	
	地 理 A		2						-4	-4	0.2	0.2	0.2
	地 理 B		4								0.4	0.4	0.4
公 民	現代社会		2	2							2	2	2
	倫 理		2					2	2		0.2	0.2	
	政治・経済		2				3			3	0.2	0.2	
数 学	数 学 I		3	3							3	3	3
	数 学 II		4		3	4	3▲		4		3.6	4	8
	数 学 III		3					4			4		
	数 学 A		2	2							2	2	2
	数 学 B		2		2	2	2▲		2		2.4	2	4
	数 学 C		2					3			3		
理 科	理科総合 A		2	2							2	2	2
	理科総合 B		2	2							2	2	2
	物 理 I		3								0.3	0.3	
	物 理 II		3								0.3	0.3	
	化 学 I		3			3				0.6	3	3	
	化 学 II		3					3	3		3	3	
	生 物 I		3		3		3●			0.6	3	3	
	生 物 II		3								0.3	0.3	
地 学 I		3							0.6				
保 健 体 育	体 育	7~8	3	3	3					8	8	8	
保 健		2	1	1	1					2	2	2	
芸 術	音 楽 I		2							0.2	0.2	0.2	
	音 楽 II		2							0.2			
	音 楽 III		2							0.2			
	美 術 I		2	2						0.2	0.2	0.2	
	美 術 II		2		2					0.2			
	美 術 III		2				2△			0.2			
	書 道 I		2							0.2	0.2	0.2	
	書 道 II		2							0.2			
	書 道 III		2							0.2			
外 国 語	オーラルコミュニケーション I		2	2						2	2	2	
	英 語 I		3	3						3	3	3	
	英 語 II		4		4	4	1○			4.5	4	4	
	リーディング		4							4	4	4	
	ライティング		4		2	1				5	3	4	
家 庭 情 報	家庭基礎		2	2						2	2	2	
情 報 A		2	1	1	1					2	2	2	
普通教科計			30	30	30	27.30	30	30	87.90	90	90		
家 庭	フードデザイン		2			3△			3.0				
専門教科計			0	0	0	3	0	0	3.0	0	0		
特 活	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	3	3	3		
総 合	人生創造支援プロジェクト	3~6	1	1	1				3	3	3		
合 計			32	32	32	32	32	32	96	96	96		

※3年文では、数学Ⅱ▲・数学B▲とフードデザイン△・芸術△のいずれか、また、理科●と国語表現I○・英語Ⅱ○のいずれかを選択。

資料iv Y工業高校 機械科 教育課程表

教科	科 目	標準単位	I 全	II 全	III 全	計
国 語	国語表現Ⅰ	2			※2	0.2
	国語総合	4	3	3		6
	現代文	4			3	3
歴 史 理	世界史A	2		2		2
	地 理 A	2	2			2
公 民	現代社会	2			3	3
	時事問題学習	2		*2		0.2
数 学	数 学 Ⅰ	3	3			3
	数 学 Ⅱ	4		3. *2		3.5
	数 学 Ⅲ	3			※2	0.2
	数 学 A	2			2	2
理 科	理科総合A	2	2			2
	物 理 Ⅰ	3		3		3
	物 理 Ⅱ	3			◇2	0.2
保 健	体 育	7～8	2	2	3	7
体 育	保 健	2	1	1		2
芸 術	美 術 Ⅰ	2	2			2
外 国 語	オーラルコミュニケーションⅠ	2		2	2	4
	英 語 Ⅰ	3	3			3
	英 語 Ⅱ	4		□2	◇2	0.4
家 庭 情 報	家庭基礎	2			3	3
	情 報 A	2				
普 通 教 科 計			18	16.18.20	16.18.20	50.52.54. 56.58
工 業	工業技術基礎	2～6	3			3
	課題研究	2～6			3	3
	実 習	4～20		3	2	5
	製 図	2～18	2	2	2	6
	工業数理基礎	2～6		□2		0.2
	情報技術基礎	2～6	2			2
	生産システム技術	2～8		*2		0.2
	工業技術英語	2～6			◇2	0.2
	機械工作	2～8	2	2	※2	4.6
	機械設計	2～8	2	2	2	6
	原 動 機	2～4		□2	◇2	0.2.4
	電子機械	2～8			※2	0.2
自動車工学	2～6			◇2	0.2	
専 門 教 科 計			11	9.11.13	9.11.13	29.31.33. 35.37
特 活	ホームルーム活動		1	1	1	3
総 合	総合学習	3～6				
合 計			30	30	30	90

▲は1年次の選択科目、●は芸術より1科目選択、○は理科総合ABのいずれか選択

(1) 1年次総合選択科目2単位(資料i、ii)

1年次に総合選択科目として2単位(オーラルコミュニケーションI、数学A、農業科学基礎、工業技術基礎、ワープロライティング、生活デザインの6科目の中から1科目)を選択させる。これらの科目は各系列の導入科目であり、専門教科のガイダンス的な要素を持った科目である。文系、理系科目、農業関係、工業関係、家庭科関係、商業関係科目から選択させている。1年次に1年間を通して科目選択を行うのに入学時に専門科目を選択させることは早すぎるようだが、入学時における自身の興味・関心を考えることに重きを置いており、2年次以降の科目選択は自由にできることにしている。

(2) 芸術の選択(資料ii、iii、iv)

音楽I、美術I、書道Iから興味・関心に応じて1科目を選択する。規模の大きい普通高校では3科目から選択させることはごく普通のことであるが、1学年6、7クラス規模や専門学科高校では芸術については学校選択が多く生徒の興味・関心で選択できる余地は少ない。2、3年次に芸術のIIを選択することによって学習内容を更に深めることもできる。

(3) 総合選択科目(資料i)

1年次において、総合選択科目は1科目2単位のみであるが、2年次になると24単位、3年次になると26単位と増える。生徒はそれぞれの進路希望や興味・関心に即して、教師のアドバイスを受けながら学習する科目を自分の意思で選択する。必修科目の履修など卒業要件を満たしているかどうかについては、履修表によってコンピュータが判断するので未履修などはない。

進学校での未履修問題のように、クラス全員が同じ目的を持った集団であれば、科目によってはクラスの殆どの生徒にとって、できれば学習したくない科目であって学習意欲も湧かない。教師にとっても生徒がそうであるから授業意欲はうせる。必修教科そのものの存在意義が問われるところとなるが、総合学科だとさまざまな目的を持った者の集団になっており、個人差はあるとしても真剣に授業に参加している。授業はその科目のシラバスどおりに展開されることになり生徒も教師も満足度は高くなる。

(4) キャリア教育

総合学科はキャリア教育であるといってもよい。その柱は選択決定能力を育むことと、科目選択については自己の決定(結果)に対する自己責任を自覚させることである。

1年次「産業社会と人間」、2年次「総合的な学習」(インターンシップ)、3年次「総合的な学習」(課題研究、デュアルシステム)を中心とした系統的・発展的なキャリア教育が行われている。

「産業社会と人間」では自己を理解し、進路決定のために情報収集能力の向上し、科目選択の能力を高めること。班別の活動として企業や上級学校を訪問させさまざまな情報を収集し取りまとめた上で発表する。外部に対する交渉やグループを共にする友人との間でのコミュニケーション能力を身に付けさせる。そのような経験から得た知識をベースに自分の進路に最も適した科目選択へと進む。また、班別研修発表会でプレゼンテーション能力も培う。

2年次の「総合的な学習」ではインターンシップの指導を中心としている。事前指導を通してインターンシップの目的や心構え、企業への配慮などを心得た上で、インターンシップに臨む、終了後はアンケートなどを通して職業観や勤労観について整理させる。2年次の後半は3年次に

行う「総合的な学習」の課題研究的側面の事前指導に移る。

3年次の「総合的な学習」では主に、選択科目によって学習した内容についてその深度を深める課題研究的なテーマが殆どだが、企業や関係施設に長期間実習するデュアルシステムにも実施している。

4 実践的産業人育成事業（デュアルシステム）

3年次の総合的な学習で実施しているデュアルシステムはキャリア教育の仕上げ的存在である。日本版デュアルシステムとは、ドイツの事業をモデルにしたもので学校や職業訓練機関と企業とが連携して若者を一人前の職業人に育てる新しい職業訓練システムである。インターンシップと違って、体験活動にとどまらない、実践的な技能の習得を目指している³。

若年者の失業率の高さやフリーターの増加など若者就労問題が深刻になり、我が国の将来の社会情勢に関する不安が広がり、教育・産業・労働分野の一体的な連携に基づく教育・訓練による若者の職業能力の開発・育成が必要であるとの観点から、平成15年6月10日に文部科学、厚生労働、経済産業、経済財政政策担当の4大臣が合意した「若者自立・挑戦プラン」において導入することが要請された⁴。

文部科学省関係では平成16年度から15地域20の専門高校で3年間の調査研究が実施され、平成17年度には5地域5校の専門高校が新たに指定された⁵。

熊本県では県立熊本工業高校が平成17年度に指定されている。これと併行して熊本県でも独自に、「実践的産業人育成推進事業」を立ち上げた。翔陽高校は平成19年度、20年度の県の指定を受けて取り組んでいる。

5 教育課程展開上の留意点

(1) ガイダンスの徹底

科目選択は総合学科の生命線と言われている。興味・関心や進路希望の実現を目指して科目選択を行うが、ある分野について専門的な学習をするためには体系的な科目の学習が必要である。単に興味・関心だけに走った選択をしないよう指導しなければならない。

(2) 選択制の堅持

特に専門科目では、科目間の連携が強く学習領域が重複している部分が多くある、また、関連科目を学習していたほうが展開しやすい部分が多くある。科目選択に条件を付けると、関連する科目を選択した生徒が固定され授業がやりやすくなる。実習など理論と直結する科目や発展的な科目においてはある程度の履修条件は必要であるが、授業が容易に展開できるという教師サイドの利点から安易に選択のための条件をつけると選択の幅を狭めることになってしまい真の選択制は実現できない。

専門学科では、専門を体系する科目群を学習するように教育課程を構成してある。総合学科の専門を学習する生徒は専門学科と同じように専門を体系的に学習し完結したいと望むものもいれ

ば、将来専門分野に進むためのガイダンスあるいは導入として科目選択しているものもいる。系列の科目群の中で導入的な科目については、選択条件を付けずに選択し学習できるような配慮が必要である。

(3) シラバスを重視した授業の展開

科目選択の行為は科目案内（シラバス）即ちカタログによる教師と生徒の契約であるということを経験した生徒も保護者も認識しておかなければならない。

選択制によって形成される学習集団は、その科目に興味・関心を持つか、学びたいという意欲を持った生徒によって成り立っているといえる。生徒はその授業に対して学習する目的や価値を持って参加しているから、授業は期待に応える内容でなければならない。生徒はガイダンスや科目案内（シラバス）を情報源として科目を選択しているため、シラバスどおりの授業が展開しないと期待を裏切ることになってしまう。固定された学級の場合は、クラスのレベルに合わせて学習内容を取捨選択する必要があるが選択制ではそれは許されない。

6 教育課程展開上の特徴

(1) 一人一人の時間割

自己を見つめそれぞれの興味・関心や進路希望に即した科目選択の結果、一人一人の時間割が完成する。生徒各人の個性を成長・発達させることのできる学習計画ができ、学習への満足度を高めることに繋がる。

(2) 開講講座数と少人数授業

選択制では開講する講座数が増える、それに伴って1講座あたりの生徒数の少ない少人数授業が展開される。[表1]に平成19年度の開講科目、講座数、1講座当たりの受講者数を表す。教師は生徒一人一人に注意を払うことができ、きめ細かな指導が行うことができる。また、このようにしてできる少人数クラスは、能力の違いによって作る習熟度別クラスと異なり、自分の意思で決定した結果であり劣等感などない。

表1 授業展開状況（平成19年度）

（平成19年度教育懇話会資料から）

年 次	科 目 数	講 座 数	1 講座当たり人数
1 年次	20	93	37.1
2 年次	53	130	27.7
2・3 年次合同	14	15	20.1
3 年次	80	142	22.3

(3) 生活集団と学習集団

選択制のもう一つの特徴は、ホームルームを中心とした生活集団と学習集団とが異なることで

ある。生活集団であるホームルームはさまざまな個性や目的を持った生徒の集まりであり、教室が社会化されている。一方、学習集団は科目毎に変わるが、同様の目的を持って選択した生徒の集団であり学習に取り組む姿勢は共通している。

このような集団が一つの目標を持ちそれに向かって進むとき個性が発揮され大きな効果を生む。このことは文化祭などのクラスの取り組みに成果として現れる。生活集団のクラスの中で互いの存在を認め合うことがコミュニケーション能力を高めることに繋がる。

(4) 弾力的な展開

教育課程の弾力的な運用として単位認定がある。4年次生以上の生徒に関して、卒業要件を満たした場合前期終了時で卒業を認めることがある。教育課程表には前期集中、後期集中の教科・科目はないが、標準単位を前期の履修だけで上回るような科目については、4年次生以上の生徒について前期終了時に単位認定を行い卒業を認めている。平成19年度については該当者はいなかったが過去に数名卒業している。

デュアルシステムによって、夏の長期休暇中に実習を実施した生徒には増加単位として単位を認定している。資格審査の結果の増加単位認定と合わせて生徒の努力の結果を認める対応が行われている。

7 成 果

(1) 進路に対する動機付けが確かである

「産業社会と人間」の自分発見から科目選択指導、2、3年次のインターンシップ、デュアルシステムなど一貫したキャリア教育によって、将来の目標が明確になることによって卒業後の転職率が極めて低い。平成19年度教育懇話会での説明によると、最近における翔陽高校卒業生の就職1年後離職の状況は5%前後であり、全国的な高校卒の1年後離職率25%と比較して定着率が大変高い⁶。このことから系統的なキャリア教育の成果を伺うことができる。

(2) インターンシップ、デュアルシステムの評価

1) インターンシップの評価

平成19年度のインターンシップの実施状況は[表2]のとおりである。近隣企業や役場、農協及び上級学校体験を加えて、5日間実施した。

実施後の生徒のアンケートによると、インターンシップを通して自分の適性を知ることにつながったと答えたものが96%。殆ど全員が社会人としてのルールやマナーを学ぶことができたと答えている。[表3]

表2 インターンシップ実施業種一覧

(平成19年度教育懇話会資料から)

業 種	実施生徒	事業所数	備 考
①農・林・漁業	4	1	
②建 設 業	12	5	
③製 造 業	46	19	
④卸売・小売・飲食店	29	10	
⑤協同組合・経済団体	22	8	
⑥公 務	28	7	
⑦福祉・医療	23	6	
⑧保育所・幼稚園	18	4	
⑨サービス	51	21	
⑩その他の就業体験実施事業所	12	2	養護学校等
⑪上級学校体験（4年制大学）	33	5	
⑫上級学校体験（専門学校）	3	1	
合 計	281	89	

表3 インターンシップアンケート

[生 徒]

(平成19年度教育懇話会資料から)

項 目	(%)	(%)	(%)
インターンシップで自分の適性を知ることができたか	よくできた 35.2	だいたいできた 61.0	できなかった 3.6
社会人としてのルールやマナーを学ぶことができたか	よくできた 71.6	だいたいできた 27.9	できなかった 0.3
インターンシップをやってどうだったか	よかった 85.6	どちらかというよかった 13.2	よくなかった 1.1
進路について考えるきっかけになったか	なった 56.6	多少なった 40.0	ならなかった 3.3

[事 業 所]

項 目	大変よい (%)	よい (%)	悪い (%)
生徒の実習態度（真剣さ、積極性）	32.8	65.7	1.3
生徒の礼儀（挨拶、言葉遣い等）	34.2	64.4	1.3

2) デュアルシステムの評価

ここでは、学校での講義・学習と企業実習を平行して実施することによって、生徒の技術や技能の能力を高め、健全な職業観、勤労観を育み、社会に有為な人材を育成することを取り組みの目標に据え、平成19年度の企業実習は希望者16名で実施した。3年次生を中心に、校内実習をより充実し、外部講師招へいによる授業・講義、講演会などを実施することによって全体の意識の向上に努めた。[表4]

表4 平成19年度「実践的産業人育成推進事業」実施内容

[校内実習、外部講師招へい、全体講演など]

(平成19年度「実践的産業人育成推進事業」中間報告から)

校内実習	系 列	内 容	
	メカニクス	パワーポイントによるプレゼンテーションテクニック向上	
	システム技術	鉄筋コンクリートベンチ製作、測量実習、木工実習	
	エコロジー	剪定ばさみの使用法・研ぎ方指導、樹木選定、花壇の定植	
生活デザイン	保育に関するテーマ学習、布絵本・布おもちゃ・パペット製作		
外部講師	系 列	講 師	内 容
	システム技術	N工務店	コンクリートベンチの配筋・型枠組み立て
		M工務店他	木造軸組み工法
	フードデザイン	Y 本 店	社会人に必要なこと進路選択の基本的な考え方講話
生活デザイン	K専門学校	保育用玩具の製作	
全体講演	対 象	講 師	内 容
	3 年 次	A 精 機	技術・技能とものづくりの大切さ職場のコミュニケーション能力など
		K熊本工場	就職内定後の心構え

[デュアルシステムによる実習先等一覧]

系 列	事 業 所	生 徒	実 習 形 態		内 容
			実施期間	実施時間	
メカニクス	C工業(株) 熊本工場	男子3名	5月～10月	水曜日⑤⑥限 10回 計20時間	自動車部品製造及び梱包作業
システム技術	U建設	男子2名	夏期休業中 10日間	8時30分～ 16時30分 計70時間	CADによる設計図面作成、現場における仮設工事作業
エコロジー	K造園	男子1名	夏期休業中 10日間	8時30分～ 16時30分 計70時間	公道の樹木選定・除草作業、台風被害調査、個人庭園剪定
生活デザイン	O保育園	A班 女子4名	夏期休業中 10日間	8時30分～ 16時30分 計70時間	乳幼児の世話(着替え・給食)、プール清掃、遊具作り
		B班 女子4名	5月～9月	水曜日⑤⑥限 10回 計20時間	
情報ビジネス	W製菓(有)	男子1名 女子1名	5月～12月	水曜日⑤⑥限 10回 計20時間	パン作り、包装、レジ打ち、接客、商品陳列、広告作り

デュアルシステムの評価については、初年度であり十分な成果は期待できないが生徒や企業のアンケートによると、専門知識の理解が深まり、専門技術・技能の向上など、インターンシップより更に深めた結果が得られていると評価できる。[表5]

表5 デュアルシステムアンケート

[生 徒]

(平成19年度「実践的産業人育成推進事業」中間報告から)

項 目	大いに思っ た (%)	思った (%)	思わなかつ た (%)	わからない (%)
企業実習に行ってよかったか	75	25	0	0
学校の学習が企業で生かされたか	19	69	6	6
企業実習が学校で勉強するより理解が深まったか	44	50	0	6
企業実習により学校で学ぶ目的・目標が明確になったか	13	43	25	19
企業実習により学校での授業に興味関心が湧いてきた	13	62	19	6
企業実習により専門的な技術・知識が身についた	6	69	6	19
企業実習により自ら学ぶ意識を持つことが重要と思った	50	44	0	6
企業実習が社会人となるための勉強と思った	49	38	0	13
企業実習により社会人となる不安感がなくなった	0	38	43	19
企業実習により自分の適性を発見できた	6	57	31	6
企業実習により進路に対する自信と前向きな意識が生まれた	37	37	13	13
記 述	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の方々の思いやりを感じ、楽しく実習ができた ・先刻的に自分から仕事を探してやることができた ・会社の組織の重要性や安全・品質管理の大切さを実感できた ・仕事の厳しさを学んだ挨拶ははっきり、大きな声で言えるよう心がけた ・学校で学んだことが活かさせた上に、学校で勉強するより理解が深まった ・専門に対する実践的な技術や知識が身についた 			

[企 業]

記 述	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に対する理解が深まるとともに、進路決定に役立ったのではないかと ・専門科目への関心・意欲が湧き、専門分野が理解しやすくなったのではないかと ・授業と関連を持たせるためには、事前の十分な打合せが必要であった ・短期集中でやって欲しい（通年型での受入れ事業所より） ・生徒の実習態度は良好で、遅刻・欠席もなく、まじめで積極的に、しかも黙々と取り組んだ
-----	--

長期休暇中に実施した企業実習については、増加単位として認定するなど生徒の努力に応じているものの、デュアルシステムを体験し、更に強い進路目標を定め、目標達成のため上級学校という次のステップを目指すものにとって、夏期休業中の学習会などに参加できないデメリットを負うことにもなっている。

(3) 生徒・保護者・職員による学校評価

平成19年度の教育目標、教科指導・生活指導・進路指導、ホームルーム・部活動、施設設備等についての生徒、保護者、職員によるアンケートによると、4段階評価で殆どの項目で2.5以上のプラス評価である⁷。教育目標について他校にない特徴があることを感じており、科目選択の制度に関しても自分の将来にとって好意的に判断している。保護者もわが子が楽しく学校に通っており学校に入学させたことに対して満足している。しかし、授業に関しては内容が確実に身につくまで指導して欲しいと感じており、納得するまで指導してもらいたいと思っている。保護者ももっと楽しくわかりやすい授業をしてもらいたいと思っている。教師は指導の充実に向けた工夫改善を重ねていると応えたものが多かったものの、教科間の報告・連絡・相談の体制には不十分さを感じている。科目選択制においては、特に強い目的意識を持って選択した生徒と卒業要件を満たすために不本意ながら選択した生徒も混在している場合がある、教師は自分の講座に出席している生徒の実態を十分に把握して授業の展開について努めなければならない。1クラスが全員同じ授業を受ける学科制の生徒の学習集団と異なることを教師は認識して授業に望むことが求められる。

進路に関する情報も充分提供され、科目選択には満足しているものの、生徒も保護者ももっともっと先生と話す機会が欲しいと思っている。このことはキャリア教育が進み更に自分の将来について考える機会ができたための結果と判断される。

8 課 題

(1) 科目選択制の周知と結果責任についての指導の徹底

科目を自分の興味・関心を元に自由に選択できるという制度を正しく理解してもらうこと。中学校での総合学科の説明、入学時の事前指導、入学後のオリエンテーションなどを通して、教師の数、教室数、実習施設などのハード面の条件から、個人個人の要望に100%応えることは不可能である。しかし、より個人の要望に近づいた学習計画が作られるということ、夢の実現に一步でも近い選択ができたということの周知が必要である。1科目でも希望がかなえられなかった場合、選択制はうそだったと短絡的に考えて学習意欲を失わないような指導を心がけなければならない。

生徒個人個人の進路希望や興味・関心により選択した結果、時間割が一人一人異なるだけの選択の種類がある。将来において資格取得のための履修科目や単位数が不足して受験資格が得られない場合も生じる。専門学科であれば資格の条件が学科指定になっておりその学科を卒業しただけで受験資格が得られている。体系的な学習ができるような科目選択を指導する理由はこのようなどころにもあるが、自分の興味・関心によって選択した場合、将来においてリスクが生じる可能性があるということを充分徹底しておかなければならない。

(2) ホームルームへの帰属意識を高める工夫

多様な進路目標を持った生徒によって形成されるホームルームの持つ教育的な効果はクラスの一体感、連帯感が伴って発揮される。朝夕のショートホームルームしか顔を合わせない教室では、ホームルームへの帰属意識が薄れるという欠点がある。ホームルームという生活集団の場がコミュニケーション能力を培うところとしての能力を発揮するためには、クラス単位で行動したり考えたりするような学校行事の導入などさまざまな取り組みが必要である。

(3) 教師の負担の軽減

選択制において開設科目が増えるだけ、1講座あたりの履修人数が減り少人数の学習グループになるが、一人の教師が担当する科目や担当する週授業時数は増える。

その分の教材研究への時間も必要になる。また、授業終了後は、出欠管理の作業、科目選択のガイダンスなど普通高校や専門高校に比べて教師の作業量は増える。

担任教師にとっては、クラスの生徒は常にばらばらに授業に参加しており生徒の把握もままならない。コンピュータの活用や人員を増やすなど教師の事務処理的な作業を減らす取り組みが必要である。

(4) 教師のカウンセリングやガイダンス能力の向上と連携

生徒一人一人の生き方や進路、履修科目の選択にはきめ細かく対応しなければならない。そのためには教師がキャリア・カウンセリングやガイダンスの能力を身に付けることが必要である。特に大学の入試情報などについては、教師間で情報を共有し、援助し合うことによって、生徒の進路実現に個別的に対応できるよう指導体制を整備することが必要である。

9 終わりに

総合学科の教育課程は従来の制度から生じた弊害を少しでもなくし、学習意欲をなくした生徒を減らすことを目的にしている。

将来の職業選択への自覚を深めさせる学習及び主体的な学習を通して学ぶ楽しさを体験させる学習の重視、制度の弾力的運用、多様な教科・科目の開設等である。

そのような意味から常に原点に立ち返り、生徒が科目選択の結果や学校生活にどのように満足しているかを点検しながら進めなければならない。総合学科の教育課程の展開には科目選択指導、進路ガイダンス、シラバスに即した指導など教師に多くの負担が求められる。

翔陽高校による総合学科の取り組みは10年を過ぎた、その間、インターンシップへの取り組みは5日間という期間と全員対象ということ、さらに企業実習だけでなく大学体験を取り入れたことなど県下初の試みであった。このことはその後の各高校での実施モデルとなっている。地域の企業や大学等上級学校の理解と協力があって実施できたことであるが、これらの取り組みが学校や生徒の理解につながっている。就職内定が常に100%であり、入学希望者が高倍率を維持していることは、学校の活動が見え、発信している情報が地域に充分伝わり理解が得られている証である。

一つの教育制度、教育課程でどのような生徒にも、どんな職員にも普遍的に有効なものは存在

しない。その制度を生かし成果を上げるためにはさまざまな立場からの支援が必要である。少子高齢化社会の実現によって高校再編について検討されているが、子供の興味・関心に応じた学習の機会を奪うような高校再編であってはならない。そのような意味からも総合学科の果たす役割は大きいと考えられるし、その存在価値は高い。総合学科を人（選択制、少人数のための教師の必要性）・金（生徒管理のためのコンピュータシステムの導入など）・物（少人数授業のための講義室の必要性）を要する重たい存在と捉えるか、全ての子供に等しく学習の機会を与える素晴らしい制度と捉えるか設置者の心構えが問われるところである。

弾力的な教育課程を展開し成果を上げるためには理解と支援が必要である。それは、総合学科に携わる教師はもちろんのこと、設置者あるいは地域にも求められることである。

参 考 文 献

- 「文部時報」（平成7年6月号）、総合学科—高等学校教育の新たなる展開。
「総合学科関係資料」平成12年（2000年）3月。文部省初等中等教育局職業教育課。
「翔陽高等学校学校経営案」平成18年（2006年）度版、平成19年（2007年）度版。
「熊本県立北高等学校学校経営案」平成18年（2006年）度版。
「熊本県立八代工業高等学校学校経営案」平成18年（2006年）度版。
平成19年（2007年）度 熊本県立翔陽高等学校「実践的産業人育成事業」実施報告（中間報告）。
「翔陽高等学校教育懇話会資料」平成19年（2007年）度。
「翔陽高校年誌」平成18年（2007年）3月。
総合学科の今後の在り方について～個性と創造の時代に応える総合学科の充実方策～（報告）平成12年（2000年）1月20日。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/009/toushin/000101.htm.

脚 注

- 1：全国総合学科高校校長協会HPより。
http://sogogakka.jp/02_sogogakkatowa/.
- 2：中央教育審議会（第14期）答申。
「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」平成3年（1991年）4月＝総合学科関係資料集：文部省初等中等教育局職業教育課 平成12年（2001年）3月＝。
- 3：独立行政法人雇用・能力開発機構ホームページ。
http://dual.ehdo.go.jp/dual_top.html.
- 4：専門高校における「日本版デュアルシステム」に関する調査研究協力者会議報告書 平成16年（2005）2月20日。
- 5：文部科学省 専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進地域の主な調査研究内容一覧から。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/dual/05042801/001.htm.
- 6：平成18年（2006年）版 国民生活白書（内閣府）から。
http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h18/01_honpen/html/06sh01.html.
- 7：平成19年（2007年）度 翔陽高等学校教育懇話会資料＜参考資料＞から。